

咳喘息

患者様情報

来院されるまでの症状

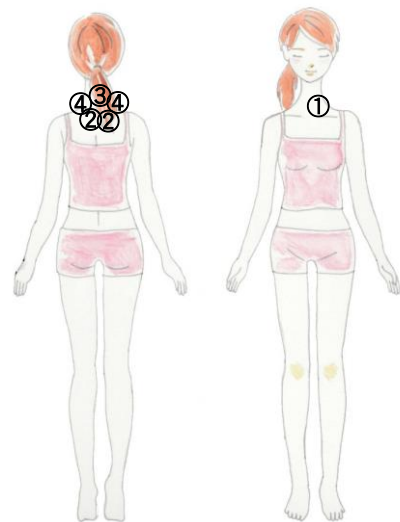
- ・2年前に風邪をひき、激しく咳込む日が続きました。
- ・通院と投薬等で風邪の症状は治まりましたが、咳は続いていました。
- ・その後、ちょっとした刺激にも過敏となり、ハウスダスト、小麦粉にまで反応して、激しい咳の発作に悩まされるようになりました。
- ・思いもよらぬ突然の咳の慢性化に悩まされ、快方の見込みがつかず不安になり、来院なさいました。

患 者 様	50 代 女性
初 診	2014 年 11 月
既 往 症	突発性難聴(右耳)
他 の 症 状	肩こり 腰痛 耳鳴り

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・施術目標を2点に絞りました。第1の目標は、当面の目標を喘息症状の軽減におきました。
- ・胸と肩周りの筋肉を鍼で緩めて気道が広がりやすくなる施術をし、気道拡張のため吸入ステロイドの使用頻度を減らすこととしました。
- ・第2の目標は、喘息を誘発しにくい状態をからだの中につくり上げることと考え、自然治癒力と自己免疫力を高める経絡治療(経絡という気や血を巡らすルートの流れを整えること)による施術をいたしました。



■ 初診後の経過

- ・施術開始から4ヵ月を経過した頃に、咳は鎮まり落ち着いた状態となりました。
- ・好転を機に来院しない状態が3ヶ月ほど続きましたが、その間に、風邪による喘息が再発していました。
- ・現在も、引き続き治療を継続して進めています。

①天突（テントツ） ②肺俞（ハイユ） ③大椎（タイツイ）
④治喘（チゼン）

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・現在、吸入ステロイドをご使用になっていらっしゃいますが、使用の回数を減らしていくことを目標に、鍼灸によって自然治癒力や自己免疫力を高めることをお勧めしました。
- ・具体的には、風邪をひいても長引かせない。こじらせない。そして、風邪をひきにくいからだへと、段階的に目標を設定して“喘息にまでいたらない”からだづくりを目指すことを、提案させていただきました。